



▲並べられた新鮮な地元産野菜(明石市)

ねぎをはじめ、地元産の野菜や乳製品など。遠方の会場では、ちりめんなどの保存のきく海産物なども用意されました。



▲淡路手延素麺の振舞い(大阪難波)

者は、「都会への情報発信や、買物客と対面しての商品販売は、生産者にとって良い経験になったのではないのでしょうか。生産者と消費者が顔の見えるふるさとづくりを進める上で、都市生活者と交流し、特産品の販売促進や観光PRを行った経験が、今後につながることを願っています」と話しています。

地元の農水産物や淡路瓦など、全国に誇る「ふるさと資源」を各地で販売・PRしようと、「南あわじ市特産物販路拡大・物産展協議会」が10月から11月、大阪難波・明石市・東京渋谷区の物産展に出店しました。

大阪難波では「大阪市中央区南商店会連合会朝市」「道具屋筋まつり」に、明石市では「兵庫県民農林漁業祭」に、東京渋谷区では「ふるさと渋谷フェスティバル」に出店しました。各地の物産展では、特産品の販売のほか、ぬしまたの塩焼きや淡路手延素麺の振舞い、観光パンフレットの配布などもあり、都市生活者に市の魅力をPRしました。この遠征の後、市の担当



▲鬼瓦の制作を披露する鬼師。同じブース内では、淡路瓦を展示し、瓦のPRを図りました(大阪難波)

淡路人形座が人形浄瑠璃を上演し、地域芸能のPRも行いました(東京渋谷区)



▲淡路人形座が人形浄瑠璃を上演し、地域芸能のPRも行いました(東京渋谷区)



▲ちりめんを販売する水産関係者。今年の秋は豊漁で、ちりめんを握る手にも力が入ります(東京渋谷区)

淡路瓦の需要拡大と販路開拓を目指し、南あわじ市と淡路瓦工業組合で結成した「淡路瓦売り出し隊」が、PR用の淡路瓦をキャラバン車に載せて各地を訪れました。

7月27日には、四国方面(徳島県美馬市、香川県丸亀市)、10月5日と6日には、中国方面(岡山県倉敷市、広島県竹原市、山口県萩市)、11月9日から11日には、九州方面(福岡県黒木町、八女市、鹿児島県出水市、宮崎県日向市)で淡路瓦をPRしてきました。



▲伝統的町並みを残す訪問地。担当者に現地の瓦について、説明を受けます



▲山口県萩市で伝建地区担当者や公共建築担当者、設計士などに淡路瓦をPRする淡路瓦売り出し隊

訪問した市町は、ともに伝統的建造物群保存地区を有しており、補助金を受けながら昔の町並みを修復、修景しています。同隊は、行政の文化財担当課や公共建築物の担当課、町並み保存会、さらに市長を表敬訪問し、瓦の発注状況を調査し、淡路瓦のPRを行いました。

同隊の担当者は、「今回の訪問でできた繋がりをさらに発展させ、淡路瓦の販路拡大につなげていきたい」と話しています。

同隊は今後、12月から県内のハウスメーカーなどにPRを行います。

市議会議員20人決まる

市議会議員選挙の結果

10月25日、任期満了に伴う南あわじ市議会議員選挙が行われ、次の方々が当選し、11月16日の臨時議会で議長に川上命氏、副議長に小島一氏が選ばれました。

当日有権者数	42,802人
投票者総数	33,802人
投票率	78.97%

任期
21年11月11日～
25年11月10日
※年齢順・敬称略
年齢は11月11日現在



なかむら みちお 中村三千雄 (73) 無所属・灘
かわかみ まこと 川上 命 (72) 無所属・伊加利
あべ けいいち 阿部計一 (72) 無所属・阿万
のぼりぞと しんいち 登里伸一 (70) 無所属・津井
くす かずひろ 楠 和廣 (68) 無所属・松帆
きたむらと しお 北村利夫 (68) 無所属・福良



はすいけ ひろみ 蓮池洋美 (67) 無所属・福良
すなだ こうよう 砂田泉洋 (64) 無所属・神代
かしわざい つよし 柏木 剛 (64) 無所属・八木
もりかみゆう じ 森上祐治 (63) 無所属・阿万
いん べ ひさのぶ 印部久信 (63) 無所属・賀集
おきふねよしひろ 長船吉博 (60) 無所属・福良
ひろうちこう じ 廣内孝次 (59) 無所属・榎列



こじま はじめ 小島 一 (56) 無所属・広田
くめ けいすけ 久米啓右 (56) 無所属・賀集
たにぐちひろみ 谷口博文 (55) 無所属・松帆
はらぐちい お 原口育大 (54) 無所属・市
くまだ つかさ 熊田 司 (52) 公明党・市
えびすともひこ 蛭子智彦 (52) 日本共産党・松帆
いでた ひろしげ 出田裕重 (34) 無所属・阿万

ふれあい市長室 新政府の動向を見極め、 議会と共に的確な対応に心がける

先般、南あわじ市議会臨時会が開催され議会における人事が決定いたしました。ご就任されました川上命議長、小島一副議長をはじめ各委員会の議員の皆様、おめでとうございます。合併後2度目の選挙で選ばれた議会議員であり、定数20人でスタートを切られました。

市長同様、議員の皆様への市民の期待は非常に大きく、いかに市民の声を集約し市政に反映させていくか、市の中長期的政策の実現や財政的課題解決のため議論を重ね苦渋の英断を下していくかにかかっております。

民主党政権に変わり、政治主導の名の下にトップダウン方式による政策展開が繰り返されております。本市においても少子対策や三原川水系河川整備計画など、新政府の動向を見極め素早く対応していかなければなりません。末端地方公共団体としての誇りや心意気を持ちながら、独自性を伸ばし、効率的な行政経営を行うべく努力を重ねてまいります。

特に、構造的課題である少

子高齢化や各種産業の厳しい経営環境、財政状況の改善のため、新しい考え方の導入や自主的な行動による新展開を模索し成果を上げるため、議員の皆様と将来を見据えた議論を行ってまいります。

新庁舎建設についても、公共施設等検討委員会の答申を尊重したいと考えております。専門家にも入っていたいただき、2年4か月で15回もの協議をいただいた、各種団体代表20人の委員会による答申では、小学校区を基本区域とした市民交流センター(仮称)設置による基本的住民サービスの維持並びにコミュニティ活動の醸成等を基盤とし、中央庁舎周辺での新庁舎建設となっております。

利便性や災害時の体制、経費削減や国の支援などを熟慮し、検討を積み重ね踏み込んだ議論を行ってまいりたいと存じます。

激動、激変する時代、市民の皆様におかれては、自立・持続可能な都市をめざし、簡素で効率的な行政を実現するためご支援下さるようお願い申し上げます。

南あわじ市長 中田勝久